

病理専門医研修プログラム (浜松医科大学医学部附属病院)

1 はじめに

医療における病理医の役割はますます重要になっていますが、静岡県 pathology 医数は全国最低の状況にあり、若手病理医の養成が緊急課題です。これを改善するため魅力的かつ各専攻医のニーズにあったプログラムを心がけます。本プログラムに是非参加して、信頼される良き病理専門医を目指してください。



プログラム統括責任者 浜松医科大学医学部附属病院 病理診断科長 馬場 聡

2 目的

本プログラムでは病理学の総論的知識と各種疾患に対する病理学的理解のもと、医療における病理診断（剖検、手術標本、生検、迅速診断、細胞診）を的確に行い、臨床医との相互討論を通じて医療の質を担保するとともに患者を正しい治療へと導くことに貢献できる病理専門医の養成を目指します。この目標を遂行するためには、病理領域の診断技能のみならず、臨床検査技師（病理技師・細胞検査士を含む）や他診療科医師との連携を重視し、同時に教育者や研究者、あるいは管理者など幅広い進路に対応できる経験と技能を積むことも重要と考えます。

3 研修病院群

(1) 専門研修基幹施設

浜松医科大学医学部附属病院

(2) 専門研修連携施設

連携施設 1 群（複数の常勤病理専門指導医と豊富な症例を有する施設）

静岡県立静岡がんセンター、静岡県立総合病院、磐田市立総合病院、聖隷三方原病院、聖隷浜松病院、浜松医療センター、豊川市民病院、東京都健康長寿医療センター

連携施設 2 群（常勤病理指導医を有する施設）

富士宮市立病院、静岡市立静岡病院、静岡済生会総合病院、静岡県立こども病院、焼津市立総合病院、藤枝市立総合病院、JA 静岡厚生連遠州病院、豊橋市民病院、JA 愛知厚生連渥美病院

連携施設 3 群（病理指導医が常勤していない施設）

市立御前崎総合病院、中東遠総合医療センター、浜松労災病院、蒲郡市民病院

4 専攻医受入数

6 名（最大受け入れ人数/年）

5 研修期間

4年：4年目の8月初旬に病理専門医試験を受験（引き続き4年目の11月末の細胞診専門医資格認定試験も受験）

6 研修計画（例）

パターン1（基本パターン、基幹施設を中心として1年間のローテーションを行う）

- 1年目；浜松医科大学医学部附属病院。大学院進学可能（以後随時）
- 2年目；1群もしくは2群専門研修連携施設、死体解剖資格を取得
- 3年目；浜松医科大学医学部附属病院、必要に応じその他の研修施設

パターン2（1群連携施設で専門研修を開始するパターン、2年目は基幹施設で研修）

- 1年目；1群専門研修連携施設。大学院進学可能（以後随時）
- 2年目；浜松医科大学医学部附属病院、死体解剖資格を取得
- 3年目；1群もしくは2群専門研修連携施設、必要に応じその他の研修施設

パターン3（基幹施設で研修を開始し、2、3年目は連携施設で研修を行う）

- 1年目；浜松医科大学医学部附属病院。大学院進学可能（以後随時）
- 2年目；1群専門研修連携施設、死体解剖資格を取得
- 3年目；1群もしくは2群専門研修連携施設、必要に応じその他の研修施設

パターン4（病理学講座の大学院生となり、基幹施設を中心に研修する）

- 1年目；大学院生として浜松医科大学医学部病理学講座（腫瘍病理学講座、再生・感染病理学講座）、加えて連携施設1群もしくは2群で週1日の研修を行う
- 2年目；同上、死体解剖資格を取得
- 3年目；浜松医科大学医学部附属病院、必要に応じその他の研修施設

パターン5（他の基本領域専門医資格保持者が病理専門研修を開始する場合に限定）

- 1年目～3年目；連携施設勤務＋基幹施設で週1日以上の病理専門研修を行う

[備考]

- 1. 施設間ローテーションは1年間で複数の連携施設間で研修することも可能
- 2. 条件付き給付型地域奨学金などで3群専門研修連携施設への就労義務がある場合、連携施設に勤務しながら非常勤の病理指導医による十分な指導が受けられる場合に限りパターン5に準じた形式（基幹施設で週1日以上研修）での病理専門研修も可能

7 問い合わせ先

馬場 聡

国立大学法人浜松医科大学医学部附属病院病理部・病理診断科

〒431-3192 静岡県浜松市東区半田山 1-20-1

TEL & FAX:053-435-2755 E-mail:<baba@hama-med.ac.jp>